

「坪井地区」(船橋美し学園)コミュニティ自立推進活動

取材日：平成23年(2011年)2月27日

【活動目的】

市内坪井地区において「船橋美し学園」という新しい街が誕生し、22年度で5周年を迎える。現在、入居戸数は約900戸で、今後倍以上が見込まれる。

新規住民が多く、相互に交流を行い、人間関係を深めてゆく必要がある。

船橋日大駅前に「NPO 美しい街住まい倶楽部」がコミュニティ形成に向けて「街づくり館」を建設し、この「街づくり館」を中心として運営協議会が民間の支援を受けつつコミュニティの自立意識向上を図ることを目的としている。

【支援金事業内容】 (支援対象経費総額 177,802円 支援金確定額 88,901円 支援率 50%)

美し学園自治会と連携し「街づくり館」を活用して、新規入居者への自治会加入と同時に5周年記念イベントの住民交流活動を開催する。

①美し学園自治会と連携し、新規住民の自治会加入促進・美しい街並みを守るための「街並み憲章」の同意を促進する。

②美し学園自治会設立5周年記念イベントの開催

③各クラブ活動による住民活動促進支援

既存住民と新規住民との交流の機会を深めるため、コミュニティ形成意識の向上を、クラブ活動やミニイベント等を実施する。

☆ガーデニング講習会 ☆七夕祭り ☆コーヒー講習会 ☆読み聞かせ・紙芝居会

☆ハロウィンパーティー ☆収穫祭 ☆クリスマスリースづくり ☆餅つきと豚汁会

☆コミュニティ大学講座(サイエンス・カフェ) ☆健康講座

☆収穫体験作業の実施(さといも 9月～11月)

④地産地消の野菜直売会の実施

地区外近隣農家や既存住宅地と一体となったコミュニティ再生に向け、地産地消の野菜直売会を「街づくり館」を利用して定期的の実施する。(毎週火・金曜日)



船橋日大駅前の「街づくり館」

【事業に期待される効果】

- ① 美し学園自治会の加入率向上及び街並み憲章の同意書による自治意識の向上になる。
- ② 自主的なクラブ活動の活性化により、子どもの見守り、高齢者の生きがい、健康維持、親子の触れ合い、子どもと高齢者との触れ合い、駅前広場や公園の美化活動（花の定植等）、街の清掃活動など地域の共助意識、コミュニティ意識の向上になる。
- ③ 野菜直売会やイベントを通じて地産地消活動及び新中旧住民のコミュニティが促進され、坪井地区が24番目のコミュニティ地区として自立できる。
- ④ 交流活動を通じて、街づくり館の果たす役割の住民への浸透で、街づくり館運営資金の財政確保方策の検討の進化が図られる。

【「坪井の気候」講演会の開催】 <平成23年2月27日(日) 10時～11時30分>

サイエンスカフェとして、新設の坪井公民館で行われ18名の参加があった。地元住民の日本気象予報士会の関隆則氏による講演は、身近な気象の変化をパワーポイントの活用と、軽妙な説明が具体的で分かりやすく、内容の濃い内容であった。

内容の概略は、アメダスの位置、衛星画像の見方について学び、建物の密度による温度の変化、雨の原因は南風と北西風の衝突であること、坪井地区・船橋の気象は風の流れで千葉より東京のデータを参考に近いことなど、坪井地区に関する気候の特徴についての講演などであった。講演者の自宅での温度測定値と都心の温度差は坪井地区が4～5度程度低いとのことであり、参加者も興味深く講演を聞いていた。



講演会

【取材を終えて】

坪井地区の「船橋美し学園」という新しい街は誕生してまもなく、入居個数は約900戸で、今後新規入居者が多数見込まれる。現在、人口は約3千人で、内小学生以下が約1千人と3割を占め高齢者は約120～130人と若い世帯が多い貴重な地区でもある。

街並みを歩くと、新しい住宅が並び病院、開業医も整って、道路も歩道も広く、左右には草花が綺麗に咲いている。広い公園には日曜日ということもあり、親子連れ特に幼児が元気に走り回っているのが印象的であった。ホテルを呼び戻そうと研究努力されている。また、コミュニティ大学講座については、今年度は日本大学の協力を得てプレ講座を開催したが、来年度以降さらに充実させ、働き盛りの男性など、地域との交流を図るのが難しいとされている人の参加も促進させていきたいとのことである。

船橋日大駅前にある「街づくり館」は、人的交流の場として十分に機能しており、運営協議会は多種多様なイベントを企画して、住民相互の交流に努力されている様子が伺われる。今後さらに新規住民が増加されるにつれ、たゆまない努力が期待される。

関わり先（連絡担当者）
船橋美し学園街づくり館運営協議会
代表 佐藤 俊一
取 扱：047-496-7778